

令和 6 年度第 3 回
朝霞市地域福祉計画推進委員会
朝霞市地域福祉活動計画推進委員会議事録

令和 6 年 1 0 月 1 日

福祉部 福祉相談課

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第3回 朝霞市地域福祉計画推進委員会 朝霞市地域福祉活動計画推進委員会	
開 催 日 時	令和6年10月1日（火） 午後1時30分から 午後3時20分まで	
開 催 場 所	朝霞市総合福祉センター 第1・第2会議室	
出 席 者	別紙のとおり	
会 議 内 容	別紙のとおり	
会 議 資 料	別紙のとおり	
会 議 録 の 作 成 方 針	☒ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☐ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	☒ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
そ の 他 の 必 要 事 項	傍聴者 0人	

令和6年度第3回

朝霞市地域福祉計画推進委員会・朝霞市地域福祉活動計画推進委員会

令和6年10月1日（火）

午後1時30分から

午後3時20分まで

総合福祉センター第1・第2会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議題

（1）第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画策定に係るアンケート調査について

（2）第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画策定に係る地域懇談会について

（3）第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の評価について

（4）その他

4 閉会

出席委員（13人）

委 員 長

丸 山 晃

副 委 員 長

土 佐 隆 子

委 員

尾 池 富美子

委 員

中 村 敏 也

委 員

横 田 暁 子

委 員

木 村 宏

委 員

岡 田 都 子

委 員

小 川 律 子

委 員

山 岸 亮

委	員	川	村	岳	人
委	員	田	畑	康	治
委	員	新	坂	康	夫
委	員	池	田	玉	季

欠席委員（５人）

委	員	伊	藤	允	光
委	員	宮	本	雄	司
委	員	村	串	克	己
委	員	池	田	直	弥
委	員	中	村	加	津雄

市事務局（５人）

事	務	局	福祉部長	佐	藤	元	樹
事	務	局	福祉相談課地域福祉係係長	平	岡	謙	一
事	務	局	福祉相談課福祉相談係係長	萩	原	朋	子
事	務	局	福祉相談課地域福祉係主任	高	麗	大	輔
事	務	局	福祉相談課地域福祉係主任	下	川	晃	秀

社会福祉協議会事務局（４人）

事	務	局	常務理事	渡	辺	淳	史
事	務	局	地域福祉推進課長	白	木	順	子
事	務	局	地域福祉推進課長補佐兼係長	上	馬	場	徹
事	務	局	地域福祉推進課地域福祉推進係主査	秋	山	晋	司

計画策定支援事業者（２人）

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所：大塚氏、國分氏

資料一覧

< 事前配付 >

- ・ 次第
- ・ 令和 5 年度第 4 期朝霞市地域福祉計画進行管理・評価シート（案）委員会会議資料【朝霞市】
- ・ 令和 5 年度第 4 期朝霞市地域福祉活動計画進行管理・評価シート（案）委員会会議資料【社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会】
- ・ 資料 1 アンケート調査項目に対する意見一覧
- ・ 資料 2 市民アンケート調査票 項目案
- ・ 資料 3 専門職アンケート調査票 項目案
- ・ 資料 4 団体アンケート調査票 項目案
- ・ 資料 5 子どもアンケート調査票 項目案
- ・ 資料 6 市民アンケート調査票
- ・ 資料 7 専門職アンケート調査票
- ・ 資料 8 団体アンケート調査票
- ・ 資料 9 地域福祉計画・地域福祉活動計画評価意見への回答

< 当日配付 >

- ・ 資料 5－2 子どもアンケート調査票 項目案
- ・ 朝霞市地域福祉活動計画等策定に係る地域懇談会実施概要（案）
- ・ 第 5 期朝霞市地域福祉計画及び第 5 期朝霞市地域福祉活動計画 策定スケジュール

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・高麗主任

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、朝霞市地域福祉計画推進委員会及び地域福祉活動計画推進委員会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます、福祉相談課の高麗でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、本会議は会議録作成のため録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。

続きまして、本会議は「市政の情報提供及び審議会等の会議公開に関する指針」により、原則公開となっております。傍聴を希望される方には入室していただくことになっておりますので、ご了承ください。また、今後、会議の途中で傍聴希望者があった場合には入場していただきますのでご了承ください。

◎2 委員長あいさつ

○事務局・高麗主任

それでは、開会にあたりまして、丸山委員長よりごあいさつをいただきたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

○丸山委員長

皆さん、今日も午後1時半からで、少し時間がずれていますが、なるべくここで会議をする時はバスの時間や公共交通機関を使えるような時間帯でと思っています。

この会議もおかげさまで3回目になりましたので、だんだんと皆さんの中でもいろいろな感想や意見など、あるかと思います。それをまた出していただいて、より良い次の計画作りに生かしていきたいと思いますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局・高麗主任

ありがとうございました。それでは、議事に先立ちまして、配付資料の確認をお願いいたします。まず、第1回の推進委員会で配布し、本日お持ちいただきました資料をご確認ください。

①、朝霞市の「令和5年度 第4期朝霞市地域福祉計画進行管理・評価シート（案）委員会会議資料」、②、社会福祉協議会の「令和5年度 第4期朝霞市地域福祉活動計画進行管理・評価シート

（案）委員会会議資料」の２点になります。そちらはお手元にございますか。ない方はいらっしゃいますでしょうか。大丈夫ですか。

次に、本日、ご持参いただくか、お渡しさせていただいた資料として、第３回委員会資料があります。まず始めに、「次第」、資料１「アンケート調査項目に対する意見一覧」、資料２「市民アンケート調査票 項目案」、資料３「専門職アンケート調査票 項目案」、資料４「団体アンケート調査票 項目案」、資料５「子どもアンケート調査票 項目案」、資料６「市民アンケート調査票」、資料７「専門職アンケート調査票」、資料８「団体アンケート調査票」、資料９「地域福祉計画・地域福祉活動計画評価意見への回答」となります。まずこちらで、抜け落ちたりしている資料がある方はいらっしゃいますでしょうか。ありがとうございます。

あとは、本日、当日資料としまして、資料５－２、資料５と同じく「子どもアンケート調査票 項目案」と、「第５期朝霞市地域福祉計画及び第５期朝霞市地域福祉活動計画 策定スケジュール」、「朝霞市地域福祉活動計画等策定に係る地域懇談会実施概要案」こちら３つを当日資料として配付させていただいております。こちらで不足ある方はございませんでしょうか。また、本日、計画書をお持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。資料は以上になります。

それでは、本日の会議に入りたいと存じます。本日の委員の皆様の出席状況ですが、委員１８名中１３名の方にご出席いただいておりますので、朝霞市地域福祉計画推進委員会条例第７条第２項の規定に基づきまして、会議が成立することをご報告いたします。

まず、委員の皆様には事前のアンケート、計画の評価に関する意見をいただきありがとうございました。アンケートは皆様の意見を参考に、修正や項目の削除等を行いました。また、資料５のとおりに、子どもアンケートを今回作成させていただきまして、提示させていただいております。こちらのアンケートを小学５年生、中学２年生、高校２年生の年齢にあたる方に対して実施する予定となっております。今回の委員会で最終的な確認、意見をいただいて修正した後に、市の関係部署で確認して、追加が必要な問いがあれば追加したものを最終版として、各アンケートを１１月上旬頃実施する予定ですので、よろしくお願いします。

評価につきましては、第１回、第２回の推進委員会で意見をいただいた施策以外の施策について、皆様に照会させていただいて、意見をいただきまして、各担当部署と社会福祉協議会へ照会をかけさせていただきまして、回答を作成させていただきました。

地域福祉懇談会につきましては、本日説明した内容について１１月下旬～１２月上旬にかけて行う予定になります。

それでは、ここからは委員長に、議事の進行をお願いしたいと思います。委員長、お願いします。

○丸山委員長

資料についての説明、ありがとうございました。皆さんもお手元にたくさんの資料があるので、いろいろと見るのが大変かもしれません。今日、議題は3つなのですけれども、最初にこのアンケートの部分、それから、社協が実施する地域懇談会の部分、これをそれぞれ大体40分ずつを目安に進めて、そして、第4期の評価の部分をおお体20分くらいと予定しております。全体としては、遅くとも2時間きっかりで終わるように進めていきたいと思っていますので、その中でいろいろとご意見や質問をいただければと思います。

◎3 議題（1）第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画策定に係るアンケート調査について

○丸山委員長

それでは、1つ目の議題、「第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画策定に係るアンケート調査について」を議題とします。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局・下川主任

では、議題（1）の第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定に係るアンケート調査についてご説明いたします。

まず、先日はアンケート調査項目、そして第4期計画の評価に関しまして、意見照会にご協力いただきまして誠にありがとうございました。いただいたご意見を資料1のほうで一覧にさせていただきます。また、一覧には、それぞれの意見への反映方法についても記載しております。修正した質問項目につきましては、市民アンケート、専門職アンケート、団体アンケートの3つを資料2から資料4まででご確認いただける形になっております。また、これまで質問項目を審議していただき、実際に対象の方に配布する形になっておりますのが、資料番号飛びまして、資料6「市民アンケート」、資料7「専門職アンケート」、資料8「団体アンケート」になってございます。

それでは、まず、資料1をご覧ください。皆様からたくさんのご意見をいただき、本当にありがとうございました。資料1の表面が、市民アンケートについてのご意見、資料1の裏面に、専門職・団体アンケートへのご意見を記載しております。いただいたご意見は可能な限り反映させていただきました。例えば市民アンケートにつきましては、もともと質問数がかかなり多くなってしまっていたこともございまして、市の総合計画の策定のために実施している「市民意識調査」の結果を活用することはできないかというご提案をいただきましたので、市民意識調査の結果を活用できる項目につきましては、質問自体をカットすることにより、前回まで質問番号が42までございましたが、最終的に33番までとなりまして、回答者への負担が減り、回答率の向上にもつながるようにな

ったかと思っております。また、専門職・団体アンケートにつきましても裏面に記載してございますが、こちらのほうは全て反映する形で修正をしてございます。

これまで皆様にご審議いただいた結果、基本的にはご提示している調査項目で実施していきたいと思っておりますが、追加でご意見等がございましたら、本日おっしゃっていただければと思っております。

また、地域福祉計画は福祉の上位計画ということもありますので、アンケートの実施までに、市役所の関係する部署にも、最終確認の意味を込めて確認をしてもらいたいと思っております。ただし、こちらの推進委員会でご審議いただいた内容になりますので、関係各課が内容を修正するものではなく、追加したい質問等があれば理由を添えて提出してもらいたいと思っております。そこで何か追加等が生じた場合は、申し訳ございませんが、委員長一任という形を取らせてもらえたらと思っておりますので、ご了承いただきたく存じます。なお、11月上旬の発送を予定しておりますので、それまでの間に、誤字・脱字や、矛盾しているところはないかなど、再度チェックした上で実施をしたいと思っております。

続きまして、子どもアンケートについて説明いたします。資料5と、本日お配りしました資料5-2をご覧ください。前回の推進委員会の際に、ただ今ご説明しました3つのアンケート調査のほかに、子どもアンケートの実施についても少しお話をさせていただきました。子どもの意見を施策に反映させる機会としまして、子どもアンケートについても実施したいと思い、ご覧いただくのは今回が初めてにはなってしまいますが、質問項目案を提示させていただきました。資料が2つありますのは、事前に配布した子どもアンケート案と、本日お配りしたアンケート案の2パターンを作成しております。どちらが良いかも含めまして、皆様からご意見をいただければと思っております。

まず、事前にお配りした資料5を基に説明いたします。子どもアンケートの対象は、小5・中2・高2の年代を設定しております。小学生、中学生、高校生と幅広くアンケートを取りたいと思いますが、それぞれ最高学年になってしまいますと受験を控えている方もいらっしゃると思いますので、その1学年下の、小5・中2・高2とさせていただきました。配布件数は、1,000件の予定です。実施方法は、郵送により配布し、回答方法は、郵送による返信のほか、ウェブ回答も可能になっております。

続いて、質問項目ですが、全部で9問をご用意しております。質問数を増やしすぎると回答を面倒に思われてしまう可能性もございますので、5～10分くらいの時間で回答ができる分量になっているかと思います。

続いて、質問内容を見ていきたいと思えます。まず、問1「あなたの性別を教えてください」で

は、市民アンケートと同様で、性別に応じた課題分析用の質問としております。選択肢には、性的マイノリティにも配慮し、男性・女性のほかに、「答えたくない」を設けております。

問2「あなたの学年を教えてください」は、回答者の年代を把握するための質問でございます。

問3「みんなが地域で安心して暮らせるために必要なことはどれだと思いますか」では、選択肢を1.「自分でできることは自分です」、2.「人のめいわくになるようなことはしないようにする」、3.「近所の人どうしてあいさつや声をかけ合う」、4.「こまっている人がいたら、先生や大人に知らせる」、5.「ちいきを良くするために市民同士が協力する」、6.「その他」の6つを設定しており、子どもが思う、安心して暮らせるために必要なことを把握するための質問になっております。

続いて、問4と問5では、子どもがどのような悩み事・心配事を抱えているかを把握するための質問です。問4では家での生活、問5では学校の生活について、それぞれ自由記述でお答えいただきます。

次に問6は、子どもが普段、悩み事を誰に相談しているかを把握するための質問です。家族なのか、友達なのか、学校の先生なのか、もしくは相談できる人がいないのか、子どもがどのような大人を頼って相談する傾向があるのかを把握するための質問でございます。

問7では、「あなたは朝霞市に愛着がありますか」という質問で、朝霞市の評価の指標とするためのもので設定しております。

続いて、問8「あなたの住んでいる地域の大人に望むことは何ですか」という質問になります。同じ地域に住む大人たちにどのようなことを望むのかを把握するための質問になっています。選択肢は、「自分たちの安全を見守ってほしい」、「挨拶を交わしてほしい」、「地域の行事に参加させてほしい」、「世の中のいろいろなことについて教えてほしい」、「困ったときに相談にのってほしい」、「その他」、「特に望むことはない」を設定しております。

最後に、問9「どのようなまちになれば、大人になっても住み続けたいと思いますか」という質問では、子どもが望む将来像を把握する質問になっております。選択肢には、「地域の人たちと交流がある」、「楽しい祭りやイベントがある」、「公園や緑が豊かにある」、「職場や学校が近くにある」、「交通の便がよい」、「日常の買い物がしやすい」、「若者向けのお店がある」、「困っている人がいたら助ける人がいる」、「その他」、「特にない」、「今のままでよい」といったものを設定しています。

以上が事前にお送りした案でしたが、質問内容に地域福祉のワードがあまり含まれておらず、どちらかというと、まちづくりの分野の色が強いようにも思いましたので、もう一つ案を用意させていただきました。それが、本日お配りした資料5-2になります。変更点につきましては、ただ今の質問の4、5、8、9の代わりに、別の質問に差し替えております。

差し替えた部分を申し上げますと、質問番号5「学校や仕事以外で、参加したことがある地域の活動を教えてください。また、今後参加してみたい活動はありますか」といった質問で、選択肢が①～⑬まであり、参加したことがある活動、今後参加してみたい活動を選択していただきます。

次の問6では、問5で参加した活動が「特にない」を選択した方のみお答えいただき、参加しなかった理由について当てはまるものを3つまで選択していただきます。

続きまして、資料の裏面になりますが、問8「あなたは日常生活でニュースなどの情報をどのように入手していますか」では、子どもたちがどこで情報を入手しているのかを把握するための質問になります。選択肢は、「テレビ」、「新聞」、「ラジオ」、「インターネット」、「SNS」、「アプリ」、「その他」、「入手していない」を設定しています。

次に、問9「あなたが利用しているSNSは何ですか」では、SNSが普及している中で、子どもたちにはどのツールが利用されている傾向にあるのかを把握するための質問になります。

以上が子どもアンケートの2つの案になりますが、どちらの案のほうが良いかというところと併せて、ほかにこんな質問を聞いてはどうかといったご意見があれば頂戴したいと思っております。

よろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

○丸山委員長

ご説明ありがとうございました。前回の第2回の時にあったアンケートの案です。市民アンケートと専門職向けのアンケート、それから団体向けのアンケートについて、この場でもたくさんのご意見をいただいて、それプラス、ご欠席の方もいらっしゃるし、細かい意見は時間の関係でなかなか全て拾いきれなかったもので、別紙にありますけれども、別途、皆さんからご意見を募って、それを反映していただいたところです。たくさん資料があっても恐縮ですが、資料6、7、8がその結果を踏まえた最終的な案という形になったところで、こちらについても、ぜひご意見等があればと思っています。

それから、子ども向けのアンケート、こちらのほうも先ほど2つ案がありましたけれども、1つ目に対しての修正を加えたものは当日になってしまいましたけれども、それぞれ内容について初めて今日議論をしますので、ご意見等がありましたら、ぜひお願いしたいと思っています。

では、どなたからでも結構ですので、ご意見やご質問がありましたらお願いします。岡田委員、お願いします。

○岡田委員

皆さんに配る分の資料8を読ませていただいたのですが、前文が市民向けのもの、専門職向けのものと、この資料8の団体向けのものは、全部文章が同じだと思うのです。団体向けのものには、次のページを開けていただくと、「団体名」から「調査票記載者名」という欄があるのです。個人が

特定されるわけですが、ここの表紙には「個人が特定できないよう処理し」という文言があるので。最初の2件とこの1件は少しニュアンスが違うと思うのです。そして、この団体向けのものには最後に、連絡しますので電話番号などを書いてくださいとあります。あと、もう一つは、書く方はどの立場で書かれるか。団体を代表して書かれるのか、個人の意見なのかというところの何も記載がないのですが、私はこれを団体の意見として、団体を代表する方として書くものではないかなと思うのです。その文章が必要ではないかなと思いました。

あと、違うものはまたあとで言えばいいですか。

○丸山委員長

ぜひ、今、全部言ってください。

○岡田委員

子どものものもいいですか。

○丸山委員長

はい、大丈夫です。

○岡田委員

子どものものは、ちょっとしたことなのですけども、前回いただいていた資料5の3番ですけども、これが「安心して暮らせるために必要なことはどれだと思いますか」という設問になっていまして、これをいただいた時には8番があって、「大人に望むことは何ですか」というものがあった、内容的に結構似通っているんで、3番に関しては、本人が自覚して、子どもたち本人が自分に対して答えることだろうと理解したのです。ですから、暮らしていくためにあなたができることで必要なこととか大切なことは、という文章なのではないかと思ったのですけれども、この改訂版の資料5-2ではそれがなくなっていますので、それは自分に対してでも、周りやよその地域の大人に対してでもあるのだというふうに、読むほうが受け取りにくいかなと思いました。

○丸山委員長

ありがとうございます。質問の1つ目の団体アンケート、こちらの最初のページの文言がほかのものと同じで、基本的には個人が特定されない、プライバシーに配慮をするというふうになしながらも、2ページ目で記載者名を書きます。前回の時のアンケートも、特定の団体で回答された方もここにいらっしやいますけれども、このアンケートはこのあとヒアリングを行うという関係もあって、最初の冒頭の部分の表現は少し工夫が必要ではないかなというご意見でした。

2つ目のご意見は、子どもアンケートです。最初の資料5では、設問3と8のところで、それがそれぞれ子ども自身の考えと、大人に望むものということだったのが、8「大人に望むもの」というものが消えることによって、資料5-2の聞き方についても少し考えたほうがいいのではないかな

ということでした。事務局、これについて何かありますか。

○福祉相談課・平岡係長

福祉相談課の平岡といいます。よろしくお願いします。まず、1点目の団体アンケートのことに
ついてご回答させていただきます。ご指摘のとおり、全て同じ文章であると不整合が出てくるとい
うことで、気付いておりませんでしたので、書きぶりを修正させていただきました。資料6と7に
ついては、個人が特定されないような配慮を行うとともに、資料8につきましては、今後のヒアリ
ングのことも踏まえて、団体の代表者としてお答えいただけるような表現に修正してまいりたいと
思っております。ありがとうございます。

○丸山委員長

ちなみに、尾池委員は前回、団体アンケートに回答された側でしたか。

○尾池委員

そうです。

○丸山委員長

資料8の最初のページのこの表現と、めくってもらったところで記入者とか代表者を書くのです
けれども、これの表現は工夫したほうがいいですか。

○尾池委員

大抵、団体調査はほとんど記載者の名前を書くというものが一般に多いような気がいたします。

○丸山委員長

ありがとうございます。記載者の名前を書きつつも、特定の団体とか個人の回答とは分からない
ように処理しますという表現ですね。

○尾池委員

団体の中で、団体の総意をその人に託して書いてもらうわけですから、個人の意見ではないとい
うことだと思います。

○丸山委員長

ありがとうございます。そういう形でここは表現を少し検討していただきたいと思います。

子どものアンケートの部分は、これは事務局というよりほかの方もそうですが、これをご覧にな
って何か気付いた点、ご意見はありませんか。では、尾池委員。

○尾池委員

今日いただいた資料5－2ですけれども、番号5番目の⑩に「外国人との交流や国際協力のため
の活動」とあるのですけれども、朝霞に特化してこのアンケートを取るのだとしたら、朝霞の場
合、どんな活動を指して、こういうものが該当すると子どもたちが答えられるものがあるのだらう

かと思っています。想定できているのかどうかを事務局にお伺いしたいと思います。

○丸山委員長

ほかにいかがでしょうか。まず、子どものアンケートの調査票の内容について、今、2つ出ましたけれども、ご意見やご質問は。では、木村委員、お願いします。

○木村委員

今回、子どもアンケートということで事前に資料で配付されて、今日、5－2が配付されたのですけれども、まずはアンケート自体の項目の内容ですけれども、地域福祉計画という観点から見たときに、何をこのアンケートで求めているのかという意図的な部分が読み取れないのです。先ほどの説明の中でも、資料5はまちづくり的な内容ということも事務局はおっしゃっていましたが、本当にそのように捉えていまして、5－2も同じような感じなのかなと。最後の8、9番も大抵SNSとかニュースとかありますけれども、これも特に地域福祉でどう関わってくるのか、そういう地域福祉という観点で考えたときのこのアンケートの内容の意図が、個人的には読み取れない部分があります。何を求めているのかということを確認したいと思います。

○丸山委員長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。では、山岸委員、お願いします。

○山岸委員

今日配付していただいた資料5－2ですけれども、2番の学年のところに生年月日が追加されているのです。この生年月日に該当しない高校2年生もいるので、かわいそうだなという気がします。生年月日はなくしたほうがよろしいのではないのでしょうか。

あと、小5、中2、高2で共通アンケートを取るならば、漢字は小学校5年生に合わせないと駄目です。だから、小学校4年生までの漢字を使って、ほかは全部平仮名か何かにしないと読めない可能性があります。

あと、5番のアンケートの答えさせ方が、私がぴんときていないのですけれども、右手側に「1. 参加したことがある」、「2. 今後参加してみたい」とあるのですけれども、ここが空欄になっていて、そこにどんどん番号を振っていく感じなのですか。どうやって書くのですか。

○丸山委員長

これは調査票に作り直すのだと思います。

○山岸委員

そうですか、ありがとうございます。すみません、では、それは私がまた見てみます。

あと、同じく5番ですけれども、ここで「参加したことがある」、「今後参加してみたい」とあるのですけれども、ここに書いてあるものを全て朝霞市が実際にやっているのか。やっていなければ

参加したことがあるわけではないのではないか。参加してみたいと言っても参加できないではないかという話になってしまうので、実際にあるのであればいいのですけれども、もしないのであれば載せる必要はないのではないかと思います。

あと、6番ですけれども、5番の結果を受けて6番なのです。「特にない」を選んだ方が6番に行くのですが、この「特にない」というのが、1番の「参加したことがある」が特にないのか、2番の「今後参加してみたい」が特にないのか、どちらのことを言っているのかが非常に分かりづらいです。

あと、8番の、例えば情報の入手ですけれども、私がびんときてないので変な質問かもしれないですけれども、小学生の情報の入手というのは、例えば友人とか学校とか、そういう選択肢もあるのではないのかと。ただ、それを聞きたいのではないというのであれば全然構わないのですけれども、少し疑問に思いました。

今、ぱっと見で思いつくのは以上です。

○丸山委員長

ありがとうございました。ほかにご意見、ご質問等はいかがでしょうか。では、川村委員、お願いします。

○川村委員

子どもアンケートというのは、私がほかの自治体に関わっている限り、導入している所を見たことがないので、とても挑戦的・意欲的な取り組みだなというのがまず率直な感想です。一方で、木村委員もおっしゃったように、これを福祉計画の一環として実施することの狙いや目的のようなものがまだ見えにくい部分もあります。先ほど言ったように、挑戦的な取り組みなので、恐らく事務局の中でも議論や検討を重ねている段階なのだろうと思っておりますので、この場で少しまた議論を重ねて方向性が出せればいいのではないかと思います。

それに関連して、私なりに考えたことを少しコメントさせていただくと、もともとの資料5の8番は、「あなたの住んでいる地域の大人に望むことは何ですか」と書いてあります。これは、だいぶ前のことですが、自分が子ども時代に、これを聞かれて何かびんとくるだろうかと考えたのですけれども、どうなのだろうと、少なくとも私自身は思いました。そもそも子どもというのは、地域社会の中で過ごす時間が多くの大人よりも多い傾向があります。なので、なぜ地域福祉計画の一環としてこういうアンケートを取るかということを考えると、地域に深く根付いて生活をしている子どもにとって、地域社会がどういうふうに見えているのか、そこから私たち大人が何か学べることはないのかというのが、1つ、狙い・意義としてはあり得るのではないかと思います。

そう考えると、8番は例えば、大人に望むことというよりは、こういった経験をこれまでにした

ことがありますかというような角度で話を聞いてもいいのではないかと考えています。例えば何かの時に大人に声をかけてもらった経験があるかとか、そういった幾つかのシーンを想定して聞く。それによって朝霞市における人と人とのコミュニケーションがどういうふうに行われているのかを把握するということであれば、地域福祉計画の中で聞く意味があるかと思います。

また、同じ資料5の9番ですけれども、「どのようなまちになれば、大人になっても住み続けたいと思いますか」。これも例えば私が小学5年生の時に聞かれたら、なかなか答えにくかったと思うのです。そういうふうに考えると、あなたから見て今の朝霞市はこうなっていると思いますかという、認識を聞くということであれば、やはりまた別の意味があるのかなと。地域の人たちが積極的に交流しているように見えるかとか、楽しい祭りやイベントがあるように認識しているのかというような、現況、そういうふうにあなたには見えていますか、見えていませんかというふうに聞くと、少し大人から見たものとは違う、子どもから見た地域の姿が浮かび上がってきて、我々が立体的に地域の実態というものを捉えられるのではないかなと思いました。

あと、さまつなことを追加でコメントさせていただくと、1番の性別のところ、これは市民アンケートでもそうですけれども、3の「答えたくない」というのが、少し言葉遣いがきついのではないかと私は思いまして、これはもう単純に「その他」でいいのではないかと。それで、答えたくない方とかいろいろな理由の方が3番に丸を付ければそれでいいのかなと。「答えたくない」というのは、少しトーンが強いという印象です。

それから、資料5の3番のところで、資料5-2の3番も一緒ですけれども、1つ目に「自分でできることは自分でする」というものがあります。正直に申し上げますと、私は、これはかなり抵抗を覚えました。例えばこのアンケートに答える児童の中には、恐らく生活困窮に陥っている世帯のお子さんもいらっしゃるかと思います。本当にしんどい思いをしているけれども、でも、なかなか親にも頼れない、先生にも頼れない、頼れる大人がいないとしんどい思いをしている児童がいるとすれば、いきなり市のアンケートで1番に「自分でできることは自分でする」、ああ、やっぱり私の問題・僕の問題は誰にも頼ってはいけないのだな、自分でやれということなのだなというふうに誤ったメッセージを送ることになりかねないと思うのです。なので、これは削除をするか、あるいはもう少し誤解を生まないような表現にする必要があるのではないかと私は思います。

それから、資料5の4番に「家の生活であなたが悩んだり心配していることはどんなことですか」とありますけれども、これも、例えば児童養護施設で生活をしている児童もこのアンケートに答えるわけです。そういうふうに考えると、やはりここで「家」と、全ての子どもが家にいて生活をしているのが当たり前だというようなメッセージを市が発信して、今の自分の状況をまざまざと実感するというのは、やはり避ける必要があるのではないかと私は思います。ここも、どうしても

聞くのであれば、例えば4番と5番をひっくり返して、先に学校を聞いて、そのあとに「学校以外の」というようにすれば、そういった子どもに対する配慮がきちんと行き届くかと思いますので、いわゆる我々がぱっとイメージするような家庭で育つ児童ではなくて、いろいろな状況に置かれた児童がいるのだということを踏まえて配慮いただけるといいのではないかと思います。

あと、これで最後にします。資料5－2の、先ほど山岸委員もおっしゃっていた6番のところで、「上記で参加した活動が「特にない」を選んだ方のみ 参加しなかった理由」を聞くというところがありますけれども、これは3つまで選ぶというふうにしていますが、これは回答者からすると、これだけの選択肢を読んだ上で上位3つを選ぶというのは結構負担が大きいことなのです。なので、1つを選ぶにするか、あるいは当てはまるもの全てを選ぶにしたほうが、回答される方は回答しやすいかと思いますので、その辺りの配慮をいただけるといいのではないかと思います。私からは以上です。

○丸山委員長

ありがとうございます。これは推測なのですが、今日配っていただいた資料5－2の設問5と6、それから裏面の8と9、前回の調査は若者向けで18～29歳を対象に同じことを聞いているのです。それで、6は「特にない」ではなくて、参加しなかったと答えた方を対象にこの6はあったので、「特にない」と答えた方はいないのではないかと。冊子のほうにはそれがあるのですけれども、質問用紙そのままではないので、どういうものだったか記憶が定かではないのですけれども。

そして、恐らく18～29歳を対象にしているアンケートを小学5年生に聞いても、少し難しいのではないかと今ふと感じました。その上で、今、ほかにも幾つか質問が出ていますけれども、ほかに何か、この子どもアンケートで質問とかご意見はありませんか。では、池田委員、お願いします。

○池田玉季委員

これを見ていて、対象者が小5、中2、高2という形で、全部うちの孫にいます。その中で、うちの孫を見ると、ちょっと幼いところもありますし、小学生にはこれは分かるかなと。今度、中2、高2はだいぶ大人になってきていますので、その辺りでは6番でも回答はできると思います。5番は、地域というよりも学校で参加をしているようなイベントのようなものです。そうなってくると、中2と高2には少しふさわしくないと感じられました。

アンケートというのは、ほとんど見えないものではないですか。やはり自分のことを隠したいというところもあるので、性別とか学年とか、そういうものは必要なのだろうかと思っています。これは年齢を問わないで全体的に出したほうがいいのではないかと。このアンケートの言葉1つ1つに限っても、答えられるものと答えられないもの、小さくても、考えていける子の中にはいるので

すけれども、その中で、インターネットを使うとかアプリを使うというのが、果たして小学生や中学生で使っているのかしらということも気にかかったところでございます。

この小学生の小さいお子さんのことに関しては、もう少し、分かりやすいと言うとおかしいのですけれども、「こんなことを僕はやったな」とか、今の小学生と中学生は非常に忙しいのです。塾とかスポーツとか、いろいろなところに出ていまして、自分の自由というのがだいぶ狭まれてしまっているところがあるので、そういったところのお母さんの考え方も聞きたいくらいなのですけれども、子どもたちが健やかに育っていくために、いろいろと駆使してやっていかなければいけないとは思っております。以上でございます。

○丸山委員長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。小川委員、今、手を挙げかけていましたが、大丈夫ですか。では、中村委員、お願いします。

○中村敏也委員

多分これは、こども家庭庁の「こどもまんなか」のところから子どもの権利というものが発生していると思うので、アンケートの中に、その子が自分の意見を尊重されている経験みたいなものが分かるアンケートがあるといいのではないかと考えております。だから、悩んでいる時に聞いてくれる人がいますかでもいいのですけれども、その意見を聞いてくれた実感があるような体験、そんなものが浮かび上がってくると、この朝霞市では子どもの権利が尊重されているのだ・されていないのだというのが浮かび上がると思うので、具体的には思い浮かばないですけれども、そんなことがあるといいと思いました。

○丸山委員長

ありがとうございます。では、土佐副委員長、お願いします。

○土佐副委員長

7番の「あなたは朝霞市に愛着がありますか」というところですが、中2・高2、特に高2になりますと、高校など全部別になりますから行動半径がすごく広がるのでいいと思いますが、小学生については少し疑問です。私自身も朝霞市に住み始めて、最初は全くないというか、関心がありませんでした。それで、今は育成会など、いろいろ入って活動をしていますけれども、そういう役を引き受けて初めて朝霞市というものを認識したように思うのです。なので、子どもアンケートの中で、「あなたは朝霞市に愛着がありますか」というのは少し無謀ではないかと思います。

昨年、佐原に行ったのですけれども、そこはお祭りの時には、出て行った人全員が帰ってきてみこしを担ぐのです。朝霞市もイベントは多いので、戻ってきたり、ほかから来たりもしますし、イベントが多くて、楽しくていいと思います。そういう意味で、そこに参加している人たちは多分

愛着はあるのだと思う。でも、それ以外の人たちは埼玉都民、朝霞都民という人たちです
ので、これは書き方がほかにあればと思いますけれども、どうなのでしょう。

○丸山委員長

ありがとうございます。ほかにもいろいろあるかもしれませんが、私も1点だけ。先ほど川村委員もおっしゃった、3番目の「自分でできることは自分です」の、「自分でできること」というのは、例えば障害のあるお子さん、障害がある人から見ると、できる・できないというのをどう捉えるかというのが、すごく答える側としては抵抗があると思います。逆に、障害がない人からしたら、できることがいいことなのかと捉えてしまって、何か障害があってできることに制約があって、支援が必要であることがネガティブな印象を与えかねないかなと思いました。

同じように、2番目の「人のめいわくになるようなことはしない」というのは、その迷惑の解釈も、介助を頼むこととか、「ちょっと手伝って」と言うことも、これは受け取る側の主観なのですが、これもまた障害を持つ人たちの関わりの中では、非常にこのワードは難しい表現だなと。これを市が出すことはやや抵抗があるという思いもあります。

先ほどあった、小学校5年生、中2、高2というのも、それで取りたいけれども、市役所としては誰が中2で誰が高2など把握していないので、生年月日でという意味合いだと思います。高校2年生の把握はできないので、この生年月日でということで改訂版になっていると思うのですけれども、一方で、子ども意見表明という部分でこれを取りたいという部分もあると思うのです。ただ、子ども意見表明には支援する人がいるという前提になるので、アンケートは、意見表明にあまりなりません。しかも、そのあとのフィードバックも、計画に反映されて初めてフィードバックなので、大変挑戦的な取り組みではあるのだけれども、やや、どうなのでしょうというところがあります。この内容や、今幾つも出ている質問やご意見を踏まえて、もし事務局のほうで何か回答できることがありましたらお願いします。

○事務局・佐藤福祉部長

福祉部長の佐藤と申します。どうぞよろしくお願いします。たくさんご意見をいただきましてありがとうございます。まず、言葉の言い回し、言葉の意味、回答の仕方など、非常にセンシティブな部分もたくさんございますので、今いただいた意見は配慮して項目を整理したいと考えてございます。

また、木村委員からご指摘があったように、まずこのアンケート調査はどういう意味があるか、地域福祉においてどういう狙いがあるのだということは、やはり記載すべきだろうと、それは全てのアンケートにおいて必要なことだと思いますので、分かりやすいような項目として追加できればと考えております。

また、山岸委員からご指摘がありました生年月日の話は、私も確認しましたが、高校2年生については、この生年月日の対象者を抽出して出すようになります。ただ、その人が高校2年生かどうかというのは分かりません。もしかしたら学校に行っていないお子さまもいますし、高校1年生の方もいらっしゃると思いますので、高校2年生がターゲットというよりは、17歳をターゲットにした形の意味になると思います。小学校5年生、中学校2年生は、義務教育的な形で通学していると思います。ただ、ご指摘のとおり、ここは、生年月日は必要ないのではないかと思います。

あと、行事の話ですが、市でやっているかというお話ですが、市ではやっておりません。あくまで地域でのいろいろなお祭りやレクリエーション行事、学校とか、そういった所で実施しており、私どもはその全て把握してはおりませんので、子どもがどういった所でどういう活動をしているか、どういう所に参加しているかといったことを知りたいところでございます。そしてまた、どういうものに参加してみたいのか、関心があるのかということも知りたいところでございます。

外国人との交流や国際協力のための活動、これは市で特に把握はしてございませんが、もしかすると学校でこういった活動をしている場合もございます。また、そういった活動を通して今後こういう行事に続けて参加してみたいというような意向のあるお子様もいるかもしれませんので、そういったところを把握してみたいと。それで、今後、もしかしたらそういった活動を市でも地域でも考えていけるかもしれないと思っております。

地域福祉でございますので、やはり地域でどういう活動をして、どういうふうに関連していくか、お年寄りから子どもまで、どういう人が皆さんで交流できて、より参加しやすい地域にできるのかというのを意図としてございますが、なかなか項目の一つ一つの言葉の言い回しも最近では難しいような状況もございます。捉え方次第で大きく変わってくるところもございますので、今いただいた意見を十分踏まえまして、修正できる部分は修正させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

○丸山委員長

ありがとうございます。そういうことですけれども、いかがでしょうか。山岸委員、お願いします。

○山岸委員

ありがとうございます。先ほど、アンケートの5-2の5番で、朝霞市でこれらを特に実施しているわけではないというお話をいただいたのですけれども、そもそもこのアンケートは「学校や仕事以外で」という前提があるので、学校では書けないのです。だからどうなのかということなのです。またそれも踏まえて、ご検討をよろしくお願いいたします。

○事務局・佐藤福祉部長

申し訳ございません。そう書いてございました。ですので、地域、町内会や、いろいろなスポーツの団体といった所での活動などを考えております。ありがとうございます。

○丸山委員長

ありがとうございます。いかがでしょうか。尾池委員、お願いします。

○尾池委員

山岸委員のお言葉に重ねてなのですがけれども、私が質問しました10番の外国人との交流とか、資料9の10番の地域づくり支援課のところで、多文化共生について質問したのですがけれども、そういう形から言うと、市は押さえていないとおっしゃったのですがけれども、この地域づくり支援課の多文化共生のところでは、しっかりと押さえた評価とか、そういうものが出来ているので、それと地域でというところの関連がないとおかしいのではないかと。地域づくり支援課は多文化共生で外国人との交流などをしっかりと続けているわけですから、その辺のしっかりとした関連が欲しいと思っています。

○丸山委員長

ありがとうございます。ほかには、いかがでしょうか。

全体的に今のご意見などを反映させるとすると、もう根本的に、この設問はかなりいじる形になるのではないかと思います。また、子ども向けのアンケートについては、どちらかというと消極的なご意見のほうが多かったような感じもしています。ただ、市としては実施したいということなのですがけれども、皆さん、例えば、これを実施するということについて、これはここで決めるというよりも、市が最終的に決めるので、ここで私たちが責任を持って決めるわけではないのですがけれども、内容はかなり変えていただくとして、この子どもたちへの、小学5年、中2、高2の世代にアンケートを取ることは、いかがでしょうか。取ってもいい、取ったほうがいいと思われるか、それとも、やめたほうがいいのではないかとというのは、いかがでしょうか。横田委員。

○横田委員

私の場合には、地域に密着した活動をしており、お祭りなどで多世代と関わる事もある為、目的を明確にしたうえで、子ども向けのアンケートを実施して頂き、子どもたちの考えや意見を聴いてみたいです。

○丸山委員長

例えば、狙いを明確にした上で、設問もだいぶ変えた上で実施をするということによろしいでしょうか。

○岡田委員

すみません。そういう方法論といいますか、私はこれを見ている、例えば地域という言葉も子

どもによって、小学校5年生がどういうふうにするかというのもあると思うのです。もしそういう機会がありましたら、市役所のほうで5年生なり中2なりを何人かピックアップして、こういったことを話して、彼らからどういう反応が出てくるのか、理解しているのか。こういった悩み事を誰に相談するかという質問に対して、彼らがどんないろいろな意見を言うのか、そんなことをしていくと、もしかしたら妥当な質問事項も出てくるのではないかと。そういうシミュレーションみたいなものをできるのだったら、するといいいのではないかと私は思います。

○丸山委員長

ありがとうございます。プレ調査的に1回、小学5年生や中学2年生、高校2年生の人を集めて、この設問で聞いてみて、どういう反応をするか、そこからアンケートを作ったほうがいいということですね。

○岡田委員

はい。

○丸山委員長

アンケートを取るよりも、そういうふうを集めて聞けば、アンケートの代わりになる気もしないでもないです。本当にそのとおりかと思います。

ほかにご意見はいかがでしょうか。今の感じでは、設問の内容はかなりいじるにしても、一応実施するということで、漢字も確かに、同じペーパーを使うのは小4に合わせないと読めないのも、そこも配慮しつつ、外国のお子さんもしらっしゃるかもしれないので、平仮名、ルビを振るとかいうのも最近のアンケートでは多いので、そういうものも必要かもしれません。その上で質問をもう一度変えて、そして、実施するというところでよろしいでしょうか。

地域福祉計画・地域福祉活動計画のアンケートなので、項目なども改めて再検討をしていくということで、これは一応進めていきたいと思います。今日、言いきれなかった部分で気付いた点や、ここは不適切ではないかとか、こういうことを聞いたほうがいいのではないかと、先ほど横田委員もおっしゃいましたが、子どもも当然、地域福祉の中の地域の主人公の1人です。住民である限り、地域の中の主体であって、その子どもたちに何を聞けばいいのか、何を聞けばその結果がこの計画に反映されるのかという視点で、この委員会のあとにもう一回、皆さんのご意見を取ればと思っています。

それを踏まえて、時間の関係もありますので、今日、皆さん、言い切れなかったかもしれませんが、前回以降、皆さんから出していただいたご意見を踏まえた市民向けのアンケート、専門職向けのアンケート、団体向けのアンケートの項目等については、次の委員会のスケジュールがあるので、委員長に一任していただいて、事務局とやりとりをさせてもらうということによろしいでしょ

うか。

○委員一同

異議なし。

○丸山委員長

ありがとうございます。とはいえ、私が全部責任を持って決めづらいので、これが終わったあとに皆さんからのご意見を適宜出していただけるように、事務局と調整したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、1つ目の議題を終えさせていただいて、2つ目に進ませていただきます。

◎3 議題（2）第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画策定に係る地域懇談会について

○丸山委員長

第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画策定に係る地域懇談会についての議題になります。本日、当日資料で白い紙で配られている、地域懇談会の資料をご覧になっていただければと思います。では、こちらも事務局からご説明をお願いします。

○社会福祉協議会・秋山主査

社会福祉協議会の秋山と申します。よろしくお願いいたします。

では、計画策定に係る地域懇談会の実施概要について、ご説明させていただきます。当日資料、白い用紙の「朝霞市地域福祉活動計画等策定に係る地域懇談会実施概要（案）」をご覧ください。

まず、日程につきましては、2枚目の資料に日程表がございます。全部で6回を予定しております。内容につきましては後ほどご説明いたしますが、6回とも同じ内容となりますので、参加する方の都合によって選んでいただけます。実施時間につきましては2時間を想定しておりまして、参加者は各回30名程度を想定しております。

続きまして、内容についてご説明いたします。1枚目の資料をご覧ください。冒頭のオリエンテーションでは、地域福祉についての説明と今回の地域懇談会の目的、進め方を確認いたします。参加される方の中には、地域福祉について知識のある方、またご興味がある方が多くいらっしゃると思いますが、今回の地域懇談会の軸となる部分となりますので、オリエンテーションに入れさせていただきました。そのあとにつきましては、朝霞市の現状について説明しまして、各グループでの自己紹介、そして、地域懇談会のメインであるグループワークに移ります。

今回の地域懇談会で実施するグループワークは3部構成になっております。各グループワークとも、まず個人の意見を付箋に書き出していただきまして、そのあとグループ内で共有していくとい

う方法で進めてまいります。

グループワーク①では、「5年後の理想の朝霞」をテーマにしまして、話し合いを行います。こちらは、「こうなったらいいな」、「こういうものがあればいいな」といった理想や希望のイメージを個々で考えていただいて、そのあとグループで共有していただきます。ただ、いきなり理想のイメージと言われても難しい場合もございますので、考える方向性として参考となるようなキーワードを幾つか提示する予定でございます。

次に、グループワーク②では、共有してもらった理想と現在の状況について、どのような違い、また、差があるかを話し合います。話し合いの際に、地域で気になっていることや困っていることなどの意見が出てきましたら、追加で記載していただきます。

そして、グループワーク③では、現在の朝霞から理想の朝霞に近づくためには、どのような取組や資源が必要かを考えます。その考える際に、「自分を含めた近隣住民ができること」、「組織として取り組むこと」の両方の視点で考えていただきます。この「組織」という考え方としましては、行政や社協、自治会・町内会など、「個人」以外という認識で考えていただきますので、組織の大小は問う予定ではございません。そして、最後に各グループで話し合ったことを発表しまして、全体での意見の共有をして終了となります。

こちらの実施概要案は、地域懇談会での意見を計画に反映することを念頭に、より多くのご意見をいただけるよう、今回のような構成とさせていただきました。改めてまとめさせていただきますと、グループワーク①では、朝霞の福祉の目標となる姿について考え、グループワーク②では、その目標に対する課題を抽出し、グループワーク③では、課題に対する取組についてご意見をいただくという内容になっております。

以上が地域懇談会の概要となります。現在、事務局では地域懇談会へ多くの方にご参加いただけるように、チラシを作成するなど、周知の準備を進めております。委員の皆様にはお知り合いの方に声をかけいただくなど、今後、周知についてご協力いただくとともに、ぜひ地域懇談会へご参加いただければと思います。

事務局からの説明は以上でございます。皆様のご意見を伺えればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○丸山委員長

ご説明ありがとうございました。この地域の懇談会は、社会福祉協議会のほうで実施する予定で、今、説明があったところです。内容等も含めて何かご意見、ご質問がありましたら、お願いします。いかがでしょうか。横田委員、お願いします。

○横田委員

この地域懇談会は過去にも実施していますが、参加してくれるメンバーが大体同じ顔触れになります。せっかくなので、そのメンバーの選び方といいますか、声のかけ方といいますか、今までにあまり参加したことのないような人に声をかけて、その辺を見極めながらやってもらえたら、有意義で新しい意見とか新しい考え方とか、どんなことに困っているのかとか、いろいろと分かると思いますので、できるだけ違った顔触れ、もちろん以前からの顔触れも含めてですけれども、やっていただくことが大事ではないかと思いました。

○丸山委員長

ありがとうございます。本当にそうですね。大体、積極的な方がいつも参加されて、本当に朝霞にお住まいで、こういう地域活動も含めてあまり参加したことがない人の意見も実は聞きたい。むしろ、各委員のほうで、こういうふうにすればそういう人にも届くのではないかと、参加してくれるのではないかとのご意見なども含めて、何かアイデアなどありませんか。いかがでしょうか。木村委員、お願いします。

○木村委員

今、チラシを作成しているというお話でしたけれども、この参加対象のところを見ますと、公募しつつ、地域福祉活動者等に声かけと書かれていますけれども、実際のこの周知方法というのですか、チラシを作成してそのチラシをどう生かすのか、その辺の周知の仕方と、開催日時で、日曜日は実施しないのですか。日曜日が抜けているようですけれども、その辺を確認させていただければと思います。

○丸山委員長

ありがとうございます。いろいろな曜日といろいろな時間帯にあるのだけれども、日曜日はないということですが、いかがでしょうか。事務局のほうで、何か、PRの工夫、声かけの実際などあればお願いします。

○社会福祉協議会・秋山主査

ご質問ありがとうございます。まず周知方法につきましては、SNS、ホームページ等の掲載というところはもちろんですが、あと、今、こちらの内部で委員会を開催しておりまして、そちらのほうで、どういう所に周知をするのか、また、どういう周知方法で広く市民の方に知っていただくのかというところを、現在検討している最中でございます。そちらにつきましては、内部と、あとは、ご意見や、こういう周知方法があるということ 아이디어としていただければと思っております。

開催につきましては、曜日にばらつきを持たせるように設定をしておりますが、会場の調整のところ、土曜日はありますが、今回は日曜日を入れることができないということで、この日程にな

ってございます。

○丸山委員長

ありがとうございます。会場の都合もあるかもしれません。では、池田委員、お願いします。

○池田玉季委員

曜日を一見した時に、やはり参加しづらいというか、この年齢的なターゲットは一体何歳を集めたいのですか。仕事をしている方とか、あと学生さんとか、そういう幅広く声かけをするのか、あるいは、年齢はどういうふうに。やはり興味がある年齢があるではないですか。もちろん高齢者もいらっしゃるでしょうし、内容によっては興味を示すという、その内容をまず絞っていかなければいけないのではないかとということと、どの年齢をターゲットにするのかなということとははっきりしないと、出すにも出しづらいのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○丸山委員長

それぞれどういう年齢、どういう人たちをターゲットに開催するのかということもありますが、事務局のほうでそのような意図とか何かありますでしょうか。

○社会福祉協議会・上馬場課長補佐

社会福祉協議会の上馬場と申します。地域に住んでいる方にはいろいろな方がいらっしゃるということで、できる限り時間と曜日はばらけさせていただいたつもりではいるのですが、どうしても会場の制約がありまして、こうした形を取らせていただいているのですが、先ほども言った、チラシ等を見て、どのターゲットの方たちがというところはもちろんあるかと思えますけれども、まずはチラシとインターネットを使って周知させていただいて、あとは、我々社会福祉協議会を含めて、手持ちで活動されているところや場所にお伺いして、障害者の方も含めてですが、直接お誘いをさせていただこうと思っています。なので、ここがターゲットというよりは、全域というか、住んでいる方皆さんに出ていただければということで設定させていただいている状況です。

○丸山委員長

ありがとうございます。では、新坂委員。

○新坂委員

会場ですけれども、うちの圏域がなくて、弁財市民センターも入っていません。多分、その代わりが産業文化センターだとは思うのですけれども、うちの三原の地区や泉水の地区などは多分、社協の方は分かっているとは思うのですけれども。なので、市全域ということで考えてしまうと、曜日や時間ももちろんですけれども、開催会場はなるべく生活圏域の中に。皆さんが行けるように配慮していただいたとは思うのですけれども、この時期に会場が取れないとか、いろいろな理由もあってのことなので、これを言っているものかと思ったのですけれども、やはりうちの圏域

にも参加したい方もいらっしゃると思うので、遠方になってしまうと、行くのをどうしようかなと思う方もいると思いますので、今から会場を変えるというのはなかなか難しいかもしれないですけども、そこも少しご配慮をいただけるといいかと思います。

○丸山委員長

ありがとうございます。では、中村委員、お願いします。

○中村敏也委員

例えばターゲットが働いている方とか学生さんであれば、Zoomみたいなものでも対応できると思うのです。あとはブレイクアウトルームなどをつくって個別にセッションしたりできると思うので、そういったものを使って、ご高齢の方やITに疎い方に関してはオフラインで、長けている方はオンラインのほうが集めやすいのではないかと思います。

○丸山委員長

ありがとうございます。オンラインというアイデア、それから、会場についても、生活圏域になるべく近いほうがいいけれども、しかし会場がなかなか借りられないという、その難しさの中でのご意見でしたけれども、事務局のほうで何か答えられることはありますでしょうか。

○社会福祉協議会・上馬場課長補佐

ご意見ありがとうございます。我々が思っていない部分のご意見も含めて頂戴させていただきました。できる、できない、を含めて、これからまとめていこうかと思います。やはり会場を取るところで、どうしても広さや予約状況というところで、どうしてもこういった結果になっている状況でございます。

あと、方法については、インターネットを使うというところは最近のことかと思いますが、我々も、やり方、どのようにやっていくかということも含めて検討が必要かと思います。まずご意見として承ります。ありがとうございます。

○丸山委員長

ありがとうございます。では、小川委員、お願いします。

○小川委員

この日程については、今のお話にあったとおりで、もう決めなければならないし、決まっていることだと思うのですが、対象者に関しては、朝霞市はどうか分からないのですが、少し調べたところによると、結構年配の方が多いような気がするのです。ということは、市全体としての人数構成を私は把握していないのですが、もう少しターゲットを子育て世代など、これからこの市で長く暮らしていかれる方、また、次世代の子どもたちをというところがすごく大事だと私は思っているの、例えばこういったものをする時に、保育士さんを隣の部屋に置いて、子どもがいても意見が言

えるといったことが、これからこういうことを企画するにあたっては、私の感覚からすると、当たり前にはやっていただけるとありがたいと思います。私も子どもがいる頃は、仕事をしていないからこういうものに少し参加した経緯があるのですけれども、保育がないと、子どもがいる方はなかなか安心して参加できないのではないかなと思うので、そのご検討もあるとありがたいです。

○丸山委員長

ありがとうございます。確かに、預かってもらって参加するというお母さんが最近増えてきました。事務局、それはまた検討をお願いします。

ほか、いかがでしょうか。では、山岸委員、お願いします。

○山岸委員

できるかできないかは全然分からないので、感覚だけで言わせていただきます。できれば、やはり若い方に参加していただきたいというのはあるのです。それで、高校でチラシを配るとか、授業の中で配布してもらおうとか、そういうことはできないのですか。当然、高校ですから、朝霞の外から来ている方もいらっしゃるので、必ずしも朝霞市の人ではないと思うのですけれども、ただ、朝霞の方が多いとは思っています。そういう告知の仕方、若い方に特に積極的なアピールをしないと、多分若い方は集まらないのではないかなというイメージがあります。ご検討をお願いします。

○丸山委員長

ありがとうございます。確かに、朝霞は、高齢化率は大体3割くらいで、7割は高齢者ではないということで、子育て世代もいれば、先ほどの、小学校、中学校、高校生に聞くということを考えたら、そういう媒体があってもいいのではないかなというところの意見ですが、いかがでしょうか。答えられる範囲で結構です。

○社会福祉協議会・白木課長

ご意見ありがとうございます。朝霞市内には高校が2つございまして、そちらにチラシをお願いすることももちろんできますし、あと、東洋大学などにもお願いできるのではないかと考えております。幅広い年齢層を集めるというのは本当に難しいことなので、ぜひ皆さんもチラシなどの周知活動にご協力いただいて、普段出てくることが難しい方は特に、私たちはやはり日頃活動されている方とお会いすることばかりが多いですから、そうでない方とお会いすることが難しいと思いますので、こちらに、保育園の方や大学の先生などもいらっしゃるの、ぜひそういったところでご協力いただけると、より熱い地域懇談会になるのではないかと思いますので、ぜひお力を貸していただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

高校などには声をかけようと思っています。ありがとうございます。

○丸山委員長

ありがとうございます。確か前回も、私を含めて委員の机にチラシが置かれていて、配って下さいとか、PRしてくださいと言われたのを思い出しました。そういう意味では、周りにどれだけ広められるか。ただ、時間があるので、オンラインであったり、あとは高校生、中学生を含めた若い人にどうやって参加してもらうかという取組ももし可能であれば、日程は会場の都合があつていろいろとあるとは思うのですけれども、今後検討して加えていただいたり、今回の懇談会以外で、例えば次年度策定する時に変更する形で実施してもいいのではないかと思います。ぜひご検討をお願いします。ほかにこの懇談会について。

では、池田委員、お願いします。

○池田玉季委員

私が思うのは、出席をしていただくのに、本当にたくさんの方が来ていただければいいのですが、人数にこだわらなくてもいいのではないかと思います。というのは、若い子をターゲットにした場合には、そこで何をしてきたか、意見を言えるか言えないかだと思うのです。少人数制というのは7～8名と言われてはいますが、その中で話し合いをすると一番自分の気持ちが言える、早く慣れると言われてはいます。20人、30人の中で何が話せるかというと、ただ話を聞いて終わってしまつて、「今の何だったの？」という感じで終わるよりは、まず1つやってみてから、一つ一つ変えていくという方法もいいのではないかと思います。

特に高校生などは、この時間帯は学校です。午後2時から午後4時は学校に行っています。大学生においては、大学生であれば多少は時間の配分が自分でできますから大丈夫だと思うのですが、では、この子たちは一体何に興味があるか、地域のことに興味があるかどうかというのも問題視されていくと思うのです。その中で少し内容を、今の子たちの考え方は、私たち昭和の時代やもっと前の人間とは違うと思うので、その辺りは若いプロジェクトの人たちとお話を進めながら、身に付くような話、この朝霞市をどうやれば良くなっていくのかという、1つに限って決めてやっていったほうが、「そうか、こういう話をする場所があるのだ」など、少し興味がある子であれば声をかけた時に来やすいのではないかなと思います。ですから、人数ではなく、中身の充実さとか、やった感とか、そういうものをお子さんたちに分かってもらえればいいのではないかなというのが私の意見でございます。

○丸山委員長

ありがとうございます。では、川村委員。

○川村委員

幅広い年齢層の市民にこういった場に来ていただいて、いろいろな意見を広くというのはもちろんとても重要なことですし、そのことに表立って反対をする方は多分1人もいないと思うのですけ

れども、ただ、その方法として地域懇談会が適切なのかということは、批判的に考える必要があるのではないかなと私自身は思っています。

恐らく、仮に全ての市民にこのチラシなり情報なりが届いたとしても、これまで地域活動に参加した経験がないという方にとってみれば、非常にハードルが高いと思うのです。最初の取っかかりがないと、やはりこういった場に出てくることは非常に難しいと思います。何か地域に関して、こういったことに気付いている、こういったことをしてみたいというふうに思っている、こんな所に出て行くと、自治会の総会のように、何か特定の年齢層で、しかもジェンダーの偏りがあるような人たちが中心となって議論をしていて、なかなか、自分は発言しにくいだろうというふうに感じられる方もいると思います。もちろん、日時、場所、あるいはチラシの配布の対象などを工夫して、なるべく多くの市民が参加をするように努力をすることは必要だと思います。

しかし、その全ての努力をしたとしても、やはりまだどうしても特定の年齢層の人たちが参加しにくいというような実態があるのであれば、例えば、こういったざっくりとした、地域の問題を話し合いましょうという投げかけではなくて、特定の、例えば子育て世代が抱える問題についての懇談会を実施しますというふうにテーマを絞る、あるいは対象を絞るというようなやり方をすると、初めてそこで、これまで取っかかりがなかったのだけれども、参加をしようと思うような人たちが出てくるのではないかと。あるいは、懇談会ということと並行して、あるいはそれを補うような意味合いで、もう特定の人たちにターゲットを絞って、グループインタビューを実施するという方法もあるわけです。このように誰にでも開かれていますと言っているのだけれども、実際、自分がそこに参加することが現実的な可能性として十分に考えられるという人たちが、垣根があるような方がもしあれば、それとは別に、そこには参加しにくい人たちにターゲットを絞って、その人たちの声をこちら側から聞きに行くというようなスタンスを取ることも、併せて重要なのではないかなと思います。

あと、このグループワークの進め方に関して少し思ったことは、グループワーク①で理想の朝霞を語る、グループワーク②で現在の朝霞の分析をすると。要は現状と理想のギャップに目を向けることが狙いだと思うのですけれども、私が地域住民だったら「少ししんどいな」と思ってしまうと思うのです。つまり、これは、理想から比べて今はこれだけ足りないというふうに、ある意味では減点法になってしまっているのです。そうすると、足りない部分ばかりに目が行くわけですが、でも、大事なものは、朝霞にどんな強みがあるとか、これまでどんな蓄積があったのかということをも市民が実感する、共有するとか、あるいは、過去と比べてこういう点は進んでいるので、この動きは今後も続けたいというふうに、足りない部分ばかりではなくて、これまで蓄積されてきたものをしっかりと共有するというところも、スタートラインとしては非常に大事だと思いますの

で、ぜひファシリテーションをする際には、その辺りにもしっかり目が行くように、足りない部分だけではなくて、朝霞の強みとは何だろうねと、そういった視点を持てるような進め方をしていただけたらと思いました。私からは以上です。

○丸山委員長

ありがとうございます。企画する側の社会福祉協議会としても、このたたき台からどういうふう
に修正しながら、当日、どういうふうに進めていくのかということと、今も意見が出ましたけれど
も、より幅広い人たちに本当に絞っていく。こういう懇談会に限らず、「何でも話せるよ」と言われ
たら、逆に行きづらいというか、しかし、自分の興味があるテーマであれば行きたいと、人は思っ
たりするので、そういう意味では、こういう懇談会を企画するのはなかなか難しいところはあるの
ですけれども、今までやってきたことにプラスアルファで何ができるかということも、またこのよ
うに検討していただければと思います。

これは、これを踏まえてまた社会福祉協議会のほうで、懇談会のチラシ作りや企画のほうに反映
してもらえればと思います。

では、時間の都合もありますので、今日、この議題に関してはここまでとして、3つ目の議題に
移りたいと思います。

◎3 議題（3）第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の評価について

○丸山委員長

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の評価についてです。今まで皆さんからい
ろいろと評価のご意見をいただいて、時間の関係もあって、前回、アンケートを取らせていただい
たことの回答も今回配られております。それも含めて、事務局からこちらの説明をお願いします。

○事務局・高麗主任

評価について説明させていただきます。資料9をご覧ください。「地域福祉計画・地域福祉活動計
画評価意見への回答」として作成させていただきました。こちらについて、第1回、第2回の推進
委員会で皆様に意見をいただきました施策以外の施策について、今回、照会をかけさせていただき
まして、たくさんの意見をいただきまして、どうもありがとうございました。皆様からいただいた
意見を各担当部署に確認しまして、回答を作成させていただきました。

こちらの意見への回答や前回までにいただいた意見を、第4期の朝霞市地域福祉計画や活動計画
の進行管理評価シートの各事業の一番下にある、委員会の意見・評価の欄に記入し、完成版として
皆様に配布させていただく予定になっております。

各担当部署への回答への意見を含めて、今回いただきました意見に関しましては、担当部署へ伝

えさせていただきますと思います。今までたくさんの意見をいただき、ありがとうございました。
事務局からの説明は以上になります。

○丸山委員長

ありがとうございます。ちなみに、社会福祉協議会の地域福祉活動計画へのご意見は1点だけだったのですが、社会福祉協議会からコメント等がありますでしょうか。

○社会福祉協議会・上馬場課長補佐

今回ご質問のところで、広報という形でご意見をいただきました。書いてあるとおり、実際にチラシ、広報誌、SNS等を使って、あとは現場に赴くというところに我々としては重きを置いて、今後もやっていきたいと考えております。

実際、活動の方たち、たくさんの仲間というか、住民の方が一緒にやっていたいところもありますので、そういったところで知っていただいている方もいらっしゃるのではないかと、私としては勝手に考えているところです。今後ともぜひ活動にご協力いただきながら、一緒に進めていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○丸山委員長

ありがとうございます。前回までの市と社協のほうの進行管理評価シートは131の事業があるので、もし仮に事業を1分で説明してもらっても130分、全員が1分でコメントしても130分で、それだけでもう4回分くらい時間がかかってしまうところを、皆さんに紙で質問やご意見をいただいて今回、回答をいただきました。

ただ、もともと前回、前々回にもご意見が出ていましたけれども、この評価シートの、例えば目標値の書き方や取り組みの記載方法、進捗状況の記載方法についても様々なご意見がありました。以前の前期、前々期の時にも、このシートはこれでいいのかという意見がいろいろありながら、結局、また次の期に来てしまっているということで、この評価の仕方とか、例えばもともと計画に目標値がないものも、シートに目標値とあると、担当部署は何か入れなければと数字を入れてしまっている部分もあって、数値になじまないものもたくさんあるので、それを評価するときに、どういう項目であれば私たちが評価しやすいのかというのは、今日ではなく、また後日、次の計画の時にぜひ皆さんのご意見をいただければと思っています。

前回までに加えて、今回、全体を通して、こちらの地域福祉計画と地域福祉活動計画の中に記載されている131の事業の進行管理、それから、市と社協の評価について、何かご意見、ご質問等はありませんか。事前に送付をしたものには書き忘れたのだけれどもという内容でも結構ですので、何かありましたら、どうぞお手を挙げていただければと思います。いかがでしょうか。

もしなければ、田畑委員、まだご発言がないので、地域福祉のいわば社会資源として、この福祉

計画とか地域福祉活動計画をご覧になって何かご意見やご質問がありましたら、ぜひコメントをお願いします。

○田畑委員

田畑と申します。事前に質問シートなどで修正案を出させてもらいまして、今日見た資料で反映されていると思いますので、特に申し上げることはありません。ただ、このように計画を評価されているということは非常に大事な取組だと思しますので、今後も続けていただくといいと思いました。以上です。

○丸山委員長

ありがとうございます。ほかには、いかがでしょうか。どんなことでも結構です。

なければ、こちらの第4期の、令和5年度までの進行管理、評価については、皆様からのいろいろなご意見をいただいたものを含めて、それを記載したもので完成という形になるかと思います。もし追加の意見がありましたら、またお寄せいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。大丈夫ですか。何かご意見等はありませんか。土佐副委員長、何かありましたら。

○土佐副委員長

特別はないですけれども、18の長寿はつらつ課、「広報で『老人クラブ』という名前を見たことがない」。今、老人クラブ、老人とは言わなくなったのです。名前が変わりましたので、こちらに書き込む場合は、「シニアクラブ」に直したほうがいいと思います。そこが少し気になりました。

○丸山委員長

ありがとうございます。そういう意見もあります。ほかには、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

131の事業があって、すごく充実した活動をやっているものもあれば、国から下りてきてずっとやらなければいけないというものもあって、様々なものがあります。またご覧になって、この計画自体はまだ次の計画を作るまで、第4期は今年も続いておりますので、何かありましたらよろしくお願いいたします。

では、3番目の現行計画の評価については終わらせていただきます。ここまでで、皆さん、言い忘れていることなど何かありますか。大丈夫ですか。

なければ、「その他」の議題に移りたいと思います。事務局のほうで何かありましたらお願いします。

◎3 議題（4）その他

○事務局・高麗主任

皆さん、本日はどうもありがとうございました。今回、当日資料として、令和5年度 朝霞市地域福祉計画及び朝霞市地域福祉活動計画の策定スケジュールというものを入れさせていただいております。こちらのスケジュールですけれども、第1回推進委員会の際に、同様の資料を配布させていただいたのですけれども、会議を実際に行ったスケジュールやアンケート実施開始日等、ずれが生じているところ、変更になっているところがありますので、10月1日現在のスケジュールとして出させていただきましたので、ご確認いただければと思います。

今回の推進委員会の予定ですが、アンケートや懇談会の結果についての話を3月中旬頃実施する予定になっております。日程については、また通知等によりお知らせさせていただければと思います。事務局からは以上でございます。

○丸山委員長

ありがとうございます。これからのスケジュールということで、次は、今日皆さんにご協議いただいたアンケートや懇談会の結果報告という形になります。これを踏まえて、来年度の令和7年度は新しい計画の策定に入っていくのですが、ちなみに、3月の中旬とは具体的にいつくらいというイメージはありますか。年度末なので聞いておいたほうが安全かと思うのですが。

○事務局・高麗主任

予定としましては、3月10日～14日頃の週を予定しているところです。状況によって変更はあるのですけれども、現状の予定はそうっております。

○丸山委員長

現状は10日～14日ということですが、この日は無理など、何かあれば今出しておいていただけると。先過ぎて分からないということもありますが、逆に、なるべく早く決めていただければとも思います。

10日は月曜日です。この日は難しいとか、あと、何曜日は避けてほしいなどありますか。今、この場でなければ、今日ご欠席の委員もいらっしゃるので、また事務局で早めに調整をできればと思います。今、アイデアがありましたとおり、10日～14日は、少し前後するかもしれませんが、この辺りでこの時間は難しいなどありましたら、事務局のほうにご連絡いただけましたら幸いです。なるべく多くの方々に参加していただいて協議ができればと思っておりますので、よろしくお願いします。こういうときは、よく委員長や副委員長の都合で調整をするのですけれども、今のところ、その週は何も入ってなかったので、調整が可能だったので、むしろ皆さんの予定をと思いました。またありましたら、よろしくお願いします。

ほかに事務局のほうで何かありますか。

○事務局・高麗主任

大丈夫です。

○丸山委員長

ありがとうございます。予定している議題が全部終わりました、2時間がマックスだったところが、1時間45分くらいで終わりました。今回も皆さんからたくさん意見をいただきまして、本当にありがとうございます。それは反映したいと思います。

やはりこういう時の締めあいさつは副委員長にさせていただくことになっておりますので、最後の締めをお願いします。

◎4 閉会

○土佐副委員長

皆様、お疲れさまでございました。いろいろなご意見を聞いて、改めて自分の無知さ加減を認識いたしました。今日のご意見を改めて頭に入れまして、これからも活動していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。今日はお疲れ様でした。